

市民クラブ海外視察報告

2017年1月20日(金)～1月26日(木)

アメリカ合衆国(アナハイム市・ロサンゼルス市)

<The 2017 NAMM Show>



<Musicians Institute>



<JETRO Los Angeles>



<LACI (インキュベーション施設)>



浜松市議会 市民クラブ

INDEX (目次)

1. 会派会長所感	P. 1
2. 視察団メンバー	P. 4
3. 海外視察計画の概要	P. 5
4. 視察行程表	P. 6
5. 事前勉強会の概要	
① 2016 楽器フェア視察	P. 7
② JETRO (JETRO Los Angeles 前所長 吉村佐和子氏)	P. 10
6. 視察報告 (視察先別報告と担当議員の所感)	
① 1月21日(土)~22日(日) The 2017 NAMM Show (浜松市ブース・カワイブース)	P. 12
② 1月21日(土)~22日(日) The 2017 NAMM Show (ヤマハブース)	P. 18
③ 1月23日(月) Musicians Institute / LACI	P. 21
④ 1月23日(月) JETRO Los Angeles	P. 31
⑤ 1月24日(火) American Honda Motor Co., INC	P. 34
7. 産業部との意見交換	P. 36

「アメリカ合衆国（アナハイム市・ロサンゼルス市）を視察して」



市民クラブ会長 齊藤 晴明

本市は、市内の中小企業に対して海外販路開拓を支援するため、2016年からドイツ・デュッセルドルフで開催されている世界最大規模の医療機器の見本市である「COMPAMED」、2017年からはアメリカ・サンフランシスコで開催されている世界最大規模の光・電子産業の国際見本市である「Photonics West」、そして本年度からアメリカ・アナハイムで開催されている世界最大規模の楽器（音楽関連機器等）の国際見本市である「NAMM Show」、それぞれに「浜松市ブース」を開設し出展している。

今回視察した「The 2017 NAMM Show」は、世界100か国以上から来場する有力なバイヤー、世界の主要な楽器・音楽関連のメディア、150を超えるネットワーキング・イベントを開催、出展者数1,500社以上、来場者数約100,000人以上と、まさに世界最大規模の楽器フェアであり、今回の出展により市内中小企業4社が世界中から来場するバイヤーとの商談・マッチングをすることで、世界市場への販路開拓を目指すものである。

今回出展した4社は、市内大手企業のOBであったり、他業種からの技術を活用するなど、本市が「ものづくりの街」だからこそできる出展でもあった。

アメリカ、特に西海岸は音楽のメッカとして音楽に関わる人や環境が桁外れに大きく、可能性は無限大にあるが、他方、過当競争が激しい部分もあり、こうした官民あげての継続的な取り組みが必要である。

公的な海外支援は、県の国際経済振興会（SIBA）の「中小企業海外市場開拓支援事業」、浜松地域イノベーション推進機構の「海外展開事業化可能性調査費補助金」、日本貿易振興機構（JETRO）の「海外ブリーフィングサービス」「海外ミニ調査サービス」「海外販路開拓支援」、本市の「アセアンビジネスサポートデスク」そして今回視察した「海外販路開拓支援事業」など多数あるが、これは国内市場が縮小していく中で、特に中小企業の海外進出支援は重要な施策であり、当会派からも政策提言を行っているが、こうした支援のあり方の検証も含めて今回の現地視察は価値あるものであり、引き続き今後の議会のなかで会派としてしっかり取り組んでいくこととする。

「NAMM Show」には、これまで市内大手のヤマハ、カワイ、ローランドなどが独自で出展しているが、特にヤマハの規模は他メーカーの追随を許さないほど大規模であり、アメリカ市場はヤマハ総売り上げの20%、アメリカ市場全体の25%がヤマハが占めているとのことであり、ヤマハなど大手と中小企業とのさまざまなケースでのマッチング・コラボの可能性について、本市として模索していく必要がある。

Musicians Institute (通称MI) は、河合楽器製作所や日本楽器製造 (現ヤマハ) に勤務経験のある渋谷尚武氏が経営しているアメリカの音楽大学である。ミュージシャンズ・インスティテュートを視察し、ミュージシャンはもとより音作りのプロを養成する施設を見学し、経営者である渋谷氏とも懇談した。

渋谷氏は音楽で世界を目指す若者たちにチャンスを与えたい一心で、日本はもとよりアメリカでも活動を進め、逆に世界をリードするアメリカで使用している教科書を輸入し、音楽教育のカリキュラムを見本とした音楽学校をMI JAPANとして日本全国に6カ所開校している。

本市にも楽器製造だけではなく音楽教育を含めたソフトを広めていき、そのためにも本市に音楽学校の誘致を含めた取組みが必要である。

JETRO Los Angeles では、カリフォルニア州の基礎情報や都市の特徴、経済・政治・主要産業の特徴、南カリフォルニアにおける日系企業の状況の説明を受けた。ロサンゼルス・ロングビーチ港は、全米の全輸入量の約4割を占め、東アジアとの貿易が全体の約8割を占めている。カリフォルニアは世界を代表する映画の都、ハリウッドがあり映画関連企業約13,000社が立地し日系企業も約80社が拠点をもち、他業種も含めると約700社に達することを考えると、カリフォルニアはアメリカにとっても、日本、本市にとっても大変魅力的な地域である。今後、楽器以外にも農産品など含めた本市のさまざまな分野において交流できる可能性がある。

ロサンゼルス・クリーンテックビジネス・インキュベーター (LACI) は国、ロサンゼルス市、ロサンゼルス電力水道局の3社が共同出資し設立し、環境に特化したインキュベーション施設で、環境技術系スタートアップを呼び込み、ロサンゼルス・環境改善と投資・雇用増につなげたいとしている。

具体的な支援プログラムには、貸オフィスをはじめファイナンス、マーケティング、商品開発、ビジネス戦略、法律上のサポートなどあり、さまざまな専門家からアドバイスを受けることができる。

スタートアップの集積地とされるロサンゼルスであるが、スタートアップ企業の成功率は1割未満と厳しい状況となっている。

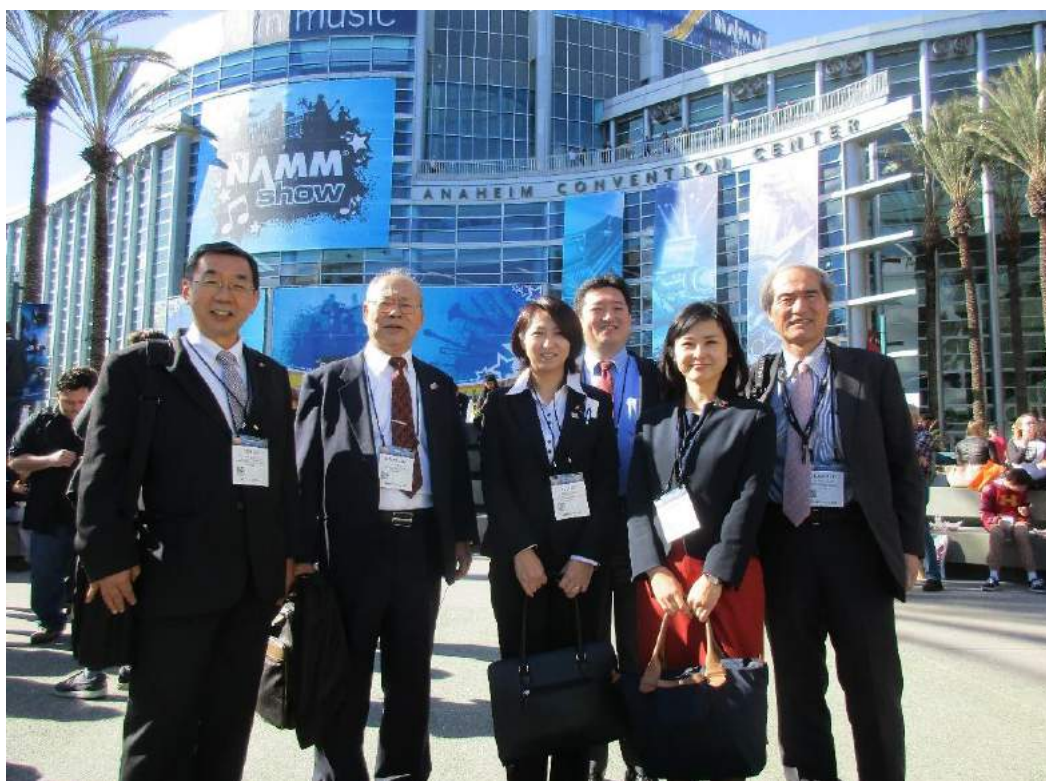
LACIは貸しオフィスや会議室などの基本的な設備に加え、製品の試作品を作るためのプロトタイプセンターが設置されており、この取り組みは本市にも事業化できる可能性を秘めている。

アメリカンホンダ本社では、アメリカ・カリフォルニアにおける ZEV 規制の概要と対応、自動運転車の取組みなど説明を受け、あわせて燃料電池車に体験乗車させて頂いた。

ZEV は排ガスがゼロの自動車で、環境への負担を軽減できることから、アメリカではこのような自動車の販売を促す規制が広がっており、特にカリフォルニア州では「電気自動車 (EV)」「燃料電池車」「プラグインハイブリッド車 (PHV)」などを ZEV として認定し、メーカーごとに販売台数の一定比率を ZEV にすることを義務付けている。もしも達成できない場合は多額の罰金を支払うか、競合他社から「排出枠 (クレジット)」を購入しなければならないなど厳しい仕組みであり、ホンダとしてもライドシェア、カーシェアリング、トランプ政権下での日本車への対応など、さまざまな困難を克服しながらの企業展開がされていた。

本市において、電気自動車の EV 充電ステーションの取組みはされているが、今回のアメリカ・カリフォルニアの現状を見ると、燃料電池車に対応する水素ステーションの設置も視野に検討すべきである。

結びに、今回の視察にあたって多くの関係者の皆様にご支援・ご協力頂いたことに感謝を申し上げ、また今後、市民クラブとして今回の視察が本市の発展に寄与できるよう努力していくことをお誓いをし視察報告とする。



視察団メンバー

	氏名	区	期数	所属委員会(役職)
	齊藤 晴明 (会長)	中区	6期	総務委員会 地方創生調査特別委員会
	徳光 卓也 (幹事長)	西区	2期	環境経済委員会(副委員長) 行財政改革・大都市制度調査特別委員会 (委員長) 大型スポーツ施設調査特別委員会
	丸井 通晴	南区	8期	厚生保健委員会 危機管理特別委員会
	平間 良明	中区	2期	市民文教委員会 新病院・新清掃工場建設調査特別委員会 大型スポーツ施設調査特別委員会
	鈴木 唯記子	中区	1期	環境経済委員会 地方創生調査特別委員会
	北野谷 富子	浜北区	1期	建設消防委員会 行財政改革・大都市制度調査特別委員会

海外視察計画（概要）

日程：2017年1月20日（金）から1月26日（木）まで
出張先：アメリカ合衆国（アナハイム市・ロサンゼルス市）
出張者：斉藤晴明、徳光卓也、丸井通晴、平間良明、鈴木唯記子、北野谷富子

【渡航目的】

本市は、市内中小企業の海外販路開拓を支援するとともに、産業集積都市としての本市の国際的プレゼンス向上を目指して、アメリカで開催される国際見本市「The 2017 NAMM Show」に「浜松市ブース」を確保し、市内中小企業と共同で出展する予定。この「The 2017 NAMM Show」を視察し、今後の中小企業の海外販路開拓支援に向けた政策立案に役立てる。また、本市市長は、年初に米国シリコンバレーを視察し大いに刺激を受け、7月の定例記者会見では「“浜松バレー”みたいなコミュニティが作られれば、そこから新たな創業が生まれてくるのではないかと思う。」と創業支援に前向きな発言をしている。JETRO ロサンゼルスやロサンゼルス市内のインキュベーション施設を視察し、“浜松バレー”構想実現に向けた政策立案に役立てる。

【視察先】

1月21日（土）

- ◎ 「The 2017 NAMM Show」 視察
 - ・ ヤマハブース訪問
 - ・ 浜松市ブース訪問

1月22日（日）

- ◎ 「The 2017 NAMM Show」 視察
 - ・ カワイブース訪問
 - ・ 浜松市ブース訪問

1月23日（月）

- ◎ Musicians Institute 視察
- ◎ JETRO Los Angeles 視察
- ◎ LACI（インキュベーション施設）視察

1月24日（火）

- ◎ AMERICAN HONDA MOTOR CO., INC. 視察

浜松市議会 市民クラブ 「アメリカ合衆国 視察」行程表

【概 要】 日 程 2017年1月20日(金)～1月26日(木) 5泊7日(内、1泊機内泊)
 視察先 アメリカ合衆国(アナハイム市・ロサンゼルス市)
 参加者 斉藤晴明、徳光卓也、丸井通晴、平間良明、鈴木唯記子、北野谷富子

【行程表】

	日付	都市名	時間	交通	行程
1	1月20日 (金)	羽田 アナハイム	22:55 15:50	NH106 専用車 ↓	空路ロサンゼルスへ (日付変更線通過) ロサンゼルス到着後、ホテルへ 【アナハイム泊】
2	1月21日 (土)	アナハイム	終日	シャトル	NAMM Show視察 (ホテル⇄会場/シャトル利用) ・ヤマハブース訪問 【アナハイム泊】
3	1月22日 (日)	アナハイム	終日	シャトル 専用車	NAMM Show視察 (ホテル⇄会場/シャトル利用) ・カワイブース訪問 専用車にてロス市内へ 【ロサンゼルス泊】
4	1月23日 (月)	ロサンゼルス	午前 午後	専用車 ↓ ↓	「Musicians Institute」視察 (3時間) 「JETRO Los Angeles」視察 (1時間) 「LACI」(インキュベーション施設)視察 (2時間) 【ロサンゼルス泊】
5	1月24日 (火)	ロサンゼルス	午後 21:00	専用車 ↓ ↓	「AMERICAN HONDA MOTOR CO.,INC.」視察 (2時間) 空港到着、チェックイン。
6	1月25日 (水)		00:05	NH105 ↓	空路、羽田へ (日付変更線通過) 【機内泊】
7	1月26日 (木)	羽田	05:25	↓ ↓	羽田空港到着 入国手続き終了後、浜松へ

事前勉強①

NAMM Show の参考とするため、日本最大の楽器総合イベントである「2016 楽器フェア」(11月4日～6日開催)を視察した。

1. 視察日時 2016年11月4日(金)
2. 視察場所 東京ビッグサイト
3. 視察内容

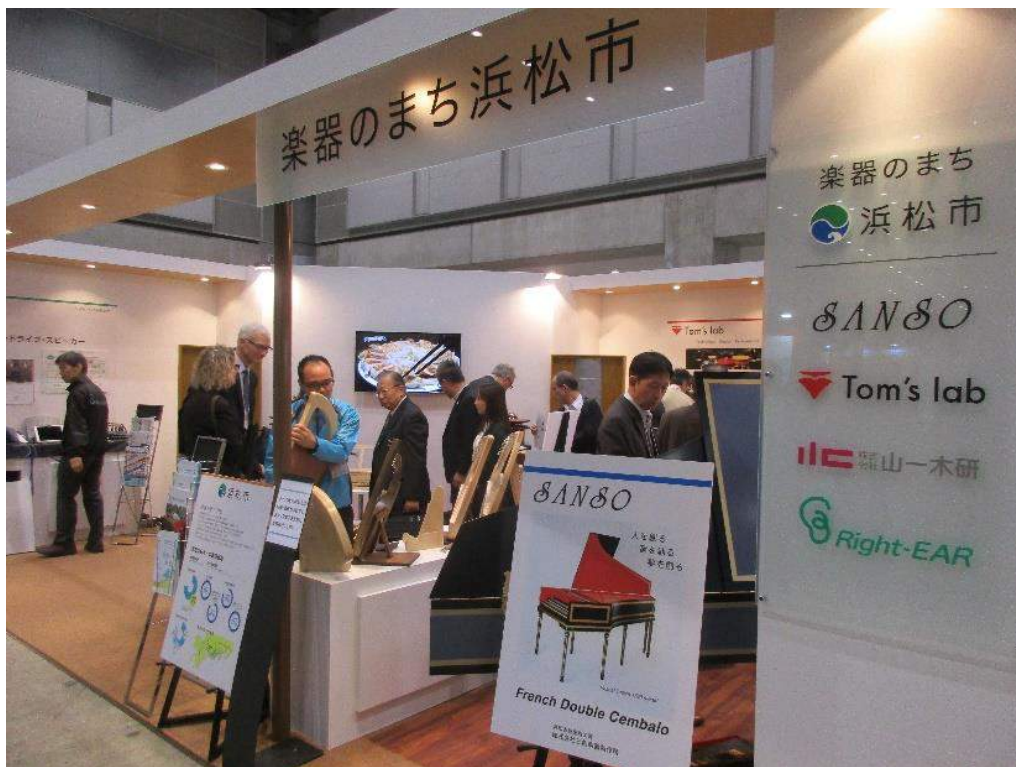
会場は東京ビッグサイト西1・2ホール。会場は楽器のジャンルごとに「アコースティックギター」「エレキギター」「打楽器」「コンピュータ・デジタル」「弦楽器・管楽器」「鍵盤」などに分かれている。よって、総合楽器メーカーであるヤマハなどは各エリアにブースを構えている。



「楽器の最新情報と音楽情報を提供する世界最大のコンシューマー向け楽器ショー」を明言しているフェアだけあり、各メーカーの最新モデルが並び、それらの多くは手にとって演奏することもできる。また、各エリアにはステージが設けられ、デモンストレーション演奏などが行われている。実際の楽器を見て、触って、弾いて、聴いて、体験することができるイベントとなっている。

この楽器フェアに、今回初めて「浜松市ブース」が開設された。このブースは、

浜松市産業部産業振興課が音頭を取り、今回は市内の4企業が出展している。(株)三創楽器製作所(東区)はチェンバロとライアー(豎琴)、トムズ・ラボ(北区)は垂直同軸360°完全無指向性スピーカーシステム、(株)山一木研(中区)はピアノ背付き高低自在椅子、ライト・イア合同会社(中区)はピロースピーカー、などを展示しており、いずれの企業の説明員も熱心に説明していただき、「楽器のまち浜松」を実感することができた。



4. 所感

- ・ 浜松市が初めての取り組みとして共同で市内業者4社と初出展した。楽器と音響がそれぞれ出展されていたが、「大手メーカーの隙間をどのように進めていくのが最大のポイントである」「職人・技術者の確保・継承が難しくなっているので行政としての支援が必要」などの声があり、今回の共同出展がそうした課題も含めて検討していく必要がある。
- ・ 楽器フェアの視察では、広い会場の中で本市ゆかりの「ヤマハ」「カワイ」「ローランド」など大手楽器メーカーのブースが多くを占めており、改めて本市の楽器産業が業界をリードする存在だと実感した。そこに「楽器のまち浜松」としてブースを構え、中小企業4社の製品展示は、より多くの人に製品を見てもらうことができ、出展企業から大変有意義であるとお聞きした。出展者間の技術コラボレ

ーションによる製品も展示されていたが、今後、多くの企業の参加によりこのような出展企業間の技術を組み合わせたコラボレーション製品が誕生するのではないかと期待するところ。

- これら大型展示会への出展は先端技術や独自技術を多くの方に披露できる一方で、商標登録や特許登録がおろそかな場合に第三者による登録や、製品の模倣など知的財産の訴訟リスクが伴う。中小企業は技術力があっても規模が小さく知的財産の保護に対して十分な対応が取れないと思うので、新規起業促進や中小企業の海外進出展開を進める本市として、これらのサポート体制の充実が必要と考える。リスク対応は出展企業側が対応すべきだが、浜松市ブースに出展するからには本市もこれらリスクについて確認しておく必要があり、出展製品の保護対応について確認を求めていく。
- 浜松市ブースではスピーカーが紹介されており「非可聴音」を再生できるものがあった。脳の活性効果が期待できるなど、音楽を楽しむだけでなく一歩も二歩も進んだ商品が日々開発されていることを改めて知った。本市で生み出される素晴らしい商品を広く認知してもらうために、今回の音楽フェアのような大きなイベントに出展する機会は非常に重要で効果的だと感じる事ができた視察となった。
- 今回、この楽器フェアを通して、本市の楽器産業の偉大さを感じる事ができた。出展している多くの企業が様々な演出で自社製品をPRしている中、本市を代表する企業のブースの大きさに驚愕した。そのブースの目前に、大きさは控えめだが「浜松市ブース」があるが、自治体名が入ったブースが他にはなく、大変目を引くものだった。今後、ロサンゼルスで開催される NAMM Show でも「浜松市ブース」を出展するが、更に市を挙げて市内企業を応援していく必要があると感じた。
- 「浜松市ブース」に今回出展していただいた4社は、製品分野も様々であり、本市の楽器産業のすそ野の広さの一端を感じる事ができた。また、ある出展者の方から自社製品に“made in HAMAMATSU”と入れたいとの話もあり、このような発想も、この楽器フェアに自治体として参加した成果であると感じた。来年1月、ロサンゼルスで開催される NAMM Show にも「浜松市ブース」を出展する。ぜひ、様々な機会をとらえて技術力のある本市の中小・零細企業を積極的にPRする場を設定していただきたい。

事前勉強②

今回の視察先である NAMM Show や MUSICIANS INSTITUTE に関する話、ロサンゼルス周辺のインキュベーションの概要などについて、JETRO ロサンゼルスの前所長である吉村佐知子氏を招き、お話を伺った。

1. 講義日時 2016年12月21日(水) 13:00~14:00
2. 講師 吉村 佐知子 氏
日本貿易振興機構 (JETRO) ビジネス展開支援部 総括審議役
(JETRO ロサンゼルス前所長)

3. 講義内容

・ NAMM Show

ロサンゼルス郊外アナハイムで行われる全米音楽楽器協会主催の世界最大の楽器見本市であり、世界 120 の国や地域から 10 万人を超える来場者がある。ヤマハ、河合楽器、ローランドなどの日本企業も参加している。

NAMM Show に浜松ブースを出すと聞くが、中小企業のビジネスチャンスにつながる可能性は大いにあると感じる。また、2016年1月のNAMM Showには浜松市長が招かれており、2017年NAMM Showに市民クラブが視察する意義は大きい。ぜひ、この規模を体感してほしい。

・ MUSICIANS INSTITUTE

(株)イーエスピー (代表取締役: 渋谷尚武氏) が運営する音楽学校。ロサンゼルス市ハリウッド地区に本部を置く。1994年に設置された。ジャズやブルース、ロックなどの現代アメリカ音楽を専門としており、音楽短期大学や専門課程なども併設している。現在、日本にも6校(東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、仙台)を展開している。

2017年夏ロサンゼルス市内ハリウッド(ドルビーシアター内)に開設予定のJAPAN HOUSEの運營業務をESP社が受託している。

なお、(株)イーエスピー代表取締役の渋谷尚武氏は、大学卒業後、河合楽器製作所、日本楽器製造(現ヤマハ)に勤務し、そこで得た知識をもとに1975年に20代の若者3人とともにギターメーカーのESPを創業。その後、教育事業やエンターテインメント事業を展開している。

校長のドニー氏は、あらゆることに「何かやろうよ」と前向きに対応する方。2015年に浜松も訪れており、アクトシティや楽器メーカーを回り「浜松はすごい」と驚いていた。

- ・ ロサンゼルス周辺のインキュベーションの概要

事業の創出や創業を支援するサービス・活動（インキュベーション）が盛んな地域を上位から並べると、1位シリコンバレー、2位ニューヨーク、3位ロサンゼルス、4位ボストンとなる。どの地域も有名大学があり、その大学と協力することにより、実績を上げている傾向にある。

視察予定の LACI は、2011 年 10 月にロサンゼルス市およびロサンゼルス電力水道局と共同で設立した環境に特化したインキュベーション施設。ロサンゼルス市長の環境政策の一環で UCLA や USC 等の大学、ロサンゼルス商工会議所等も協力している。2015 年 11 月に現在の場所に移転。6 万平方フィートの広さを誇る新施設は、敷地内の電源を太陽光発電で賄い、排水を再利用した水を植栽用に使うなど、環境への配慮が随所に見られる。また、貸しオフィスや会議室などの基本的な設備に加え、製品の試作品を作るためのプロトタイプセンターが設置されているなど、起業を目指す環境は整備されている。

インキュベーション施設は、その地域に大学や産業があることが必要。浜松は世界的企業が多数あり、「浜松バレー」を目指す環境にあると思う。





氏名 鈴木 唯記子
担当日 2017年1月21日(土)～22日(日)
NAMM Show(浜松市ブース、カワイブース)

【施設概要】

NAMM Show 会場は、アナハイムコンベンションセンター地下1階・1階・2階・3階と、ステージ照明・音響ブースのアリーナホール、隣接したマリオットホテルではヤマハブースが出展している。野外中央広場ではフードトラックが並び、その先のニッサングランドプラザステージで構成されている。

メイン会場1階はA～Dの4ブロックに分けられており、「浜松市ブース」は1階Bの奥、カワイブースは2階に設置されていた。

【視察内容】

世界最大規模の楽器国際見本市「NAMM Show」に、今回、自治体出展初となる浜松市ブースと、市内楽器メーカーブースの視察。

・浜松市ブースの出展目的

「楽器生産のまち」である本市は、大手3メーカーのほかにも、世界に通用する優れた製品を持つ中小企業が数多く存在する。昨年12月に市内で開催した「楽器メーカーズフェスティバル」の出展企業の中に、海外販路開拓に関心がある企業が複数あることが分かったことから企業支援とともに、楽器産業界における本市楽器産業の関連国際的プレゼンスの更なる向上を目指す。

・経緯

(平成27年10月19日)

NAMM Show CEO のジョー・ラモンド氏と鈴木副市長との面談で平成28年1月の NAMM Show への浜松市長招待と、市内楽器関連の中小企業出展について支援の要望を受けて、市長が参加決定。

(平成27年12月5日～6日)

浜松楽器メーカーズフェスティバルが開催され、大手3メーカーに加え、市内中小企業33社が出展した。海外販路開拓に関心がある企業が複数存在することが分かったが、中小企業では単独出展が難しいことが検討事項であった。

(平成28年1月20日)

NAMM Show 開幕前日に開かれる国際連携会議 (International Coalition Meeting) に参加し次回 NAMM Show への参加を表明した。国際連携会議は、NAMM をはじめ、各国の業界団体や企業の代表が出席して、情報交換やセミナー、ディスカッション、昼食会を行

う。鈴木市長も会議スピーチにて本市の概要と取り組みを紹介した。

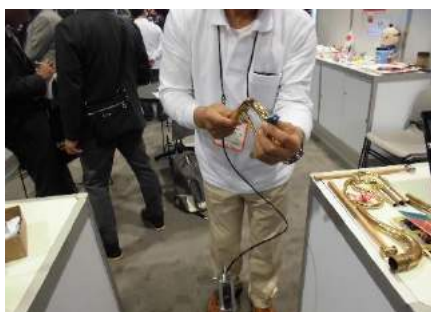
《浜松市ブース出展企業》

[浜松市]

- ・対応者 浜松市産業部 産業振興課 産業振興課長 瀧下且元 氏
はままつ首都圏ビジネス情報センター長 山田英二 氏
海外支援グループ長副主幹 中野昭徳 氏
地域産業グループ主任 中田希 氏
浜松地域イノベーション推進機構
事業推進部企画・マーケティンググループ主幹 木下真弥 氏

[株式会社 久米]

- ・対応者 取締役専務 久米明仁 氏、部長 鈴木昌明 氏、工具開発 菅原一 氏
- ・所在地 東区半田山
- ・業 種 管楽器販売・修理、管楽器修理工具製造・販売
- ・出展物 管楽器リペア器具、マウスピース抜き器



(株)久米は、会場ではドラムペダルを利用して管楽器をリペアできる特殊な器具の展示と修理の実演を行っていた。

管楽器のカーブ部分は厚さ3～8mmと薄いため傷や凹みが付きやすい。息の響きで音を発しているため、変形により音色が変わってしまう。元々、管楽器の修理が仕事のため、修理を生業としなければ会社としては儲か

らないのだが、学校で使われている楽器は修理頻度も高いことから、修理代もかさむため、困っている学校が多かった。役に立ちたいという社長の強い気持ちから、学校で自分でも修理ができる器具を考案、販売しているほか、管楽器のリペアスクールもおこなっている。今回、実演展示を行ったことは、カタログだけでは伝わらない手軽さやイメージが伝わり大きな成果である。

[有限会社 富永工業]

- ・対応者 代表取締役 富永誠一 氏
- ・所在地 浜北区新原
- ・業 種 機械部品加工業
- ・出展物 アルミ製リガチャー



サククスなど管楽器のリガチャーはこれまで、ステンレス製のものしかなく、富永社長自身が求める製品がなかったため、アルミ製リガチャーを制作したことが、製品開発のきっかけ。形にするまでに4～5年かかった。アルミは材質的に、少しの息で楽に音が出るため、初心者でも使いやすい。カラフルな音色も他にはない製品の特長だが、リガチャーの形状は円形に見えるが実は円錐形のため、機械で曲げると傷が付いてしまい色がのらない。全て熟練の職人による手作業で曲げているほか、着色はバイクのホイール、ウレタンは鯖江市の眼鏡フレームの企業にお願いするなど、楽器以外の様々なものづくり技術が駆使されてできている。ものづくりの街、浜松だからこそできた製品とのこと。

[パイフォトニクス株式会社]

- ・対応者 代表取締役 池田貴裕 氏
- ・所在地 東区将監町
- ・業 種 光学機械器具製造販売
- ・出展物 パターン形成 LED 照明装置



今回、出展品のホロライトはホログラムを応用した照明装置である。ホログラムとは、光の振幅と位相の情報を干渉縞の形で記録したものを呼ぶ。そのホログラムを作成する技術をホログラフィーといい、3次元空間の情報を2次元平面に記録・再生することが出来る究極の3次元表示方法と言われている。

このホログラフィーを用いることにより3次元情報を並列的に記録・再生することが出来る。そのためホログラムは超大容量・超高速な入出力媒体として実用化が期待されている。

池田社長は光技術を用いた3次元情報の表示・測定・処理に関する研究開発に携わってきた研究者であり「自分の研究成果を自分の手で事業化したい」という夢を実現している。通常の光は遮断すると影となるがホロライトは、光が遮断されても、全てでなければ投影できることが大きな特徴であり、この特徴を活かした製品も実用化している。例えば、フォークリフトにホロライトを設置し、フォークリフト稼働中の危険ゾーンをアーチ状の光で明示することにより、音で危険を知らせることが困難な工場において、光で危険を知らせ、作業員の安全が確保できる。これらの技術を様々な分野で生かしていけたらとしている。

[株式会社 ベストブラス]

- ・対応者 代表取締役社長 濱永康太 氏
- ・所在地 南区西町
- ・業 種 製造業
- ・出展物 トランペット、マウスピース、ミュート



ベストブラスは、金管楽器用アクセサリ等の開発企業である現会長の濱永晋二氏は、大手楽器メーカー勤務時に金管楽器設計者として活躍し、その時開発を手掛けた金管楽器用の消音器が爆発的なヒット商品となったことで知られている。

ベストブラスは、大企業が手掛けていない分野で演奏家のニーズを見つけ出し、本質を追求した付加価値の高い製品開発やタイミングよく製品化にできるのが最大の特徴である。現会長は、40代で同会社を設立し、それまでの技術を発展させ、一体型消音器「イーブラス」等の新製品を次々と開発した。

ホルンなどは音が出る所を調節すると消音できるが、サククスなどは指で押さえるところからも音が出ているため、消音するには全てを囲うしかない。管楽器も多い住宅事情もあり、このような消音器は売れている。

イーブラスと一般的な電子消音器との大きな違いは、電子回路がミュート内部に組み込まれていることで、不要なコードが減り、他の一体型でない電子消音器に比べ最大で40%以上も軽量化されており、最も重いホルン用でも携帯電話やスマートフォンよりも軽い。また、楽器に装着したままでも、ケース収納できるほど小さいため、大変使いやすくなっている。

《Kawai America Corporation》

- ・対応者 社長 森直樹 氏、Manager DAVID M. REED、
Master Piano Artisan Yoshiaki Kusakabe
- ・所在地 East University Drive Rancho Domingues
- ・業 種 製造業
- ・出展物 グランドピアノGLシリーズ、アップライトピアノ、電子ピアノCA、
CSシリーズ

カワイアメリカの森社長より、2006年から毎年、NAMM Showに出展している。展示するピアノメーカーは年々減少し、出展当初から同スペースを維持しているのは、ヤマハとカワイの2社くらいとのことだった。アメリカは、家具としてピアノを買い求める人が多かったが、2008年のリーマンショック以降は、純粋に楽器としてピアノを求める人が増え、それに伴い更に高いグレードの製品が求められるようになってきた。素材・設計な

ど開発投資にはかなりかけており、例えば、鍵盤の長さが変われば、タッチの重さも変わることや、同じアメリカ国内であっても、気候が異なり、湿度も違うため、影響なく演奏性能を高める努力を日々している。

今回は、目玉として2016年大晦日に放送された第67回 NHK 紅白歌合戦で、X JAPAN のYoshiki さんが使用した新クリスタルグランドピアノ（同型）が参考出展された。ピアノ本体にはLED が内蔵され、曲に合わせてピアノの色をリモートコントロールできる。この様に、より自分らしくというお客様の高いニーズに答え、新しい挑戦・開発に取り組みつつ、品質向上を目指してきた結果、一番大きく高級品である「SHIGERU.K」は売り上げを伸ばしている。

また、GLシリーズは、米国で影響力のある音楽業界誌MMR誌が販売店の投票で決める表彰制度「ディーラーズ・チョイス・アワード」で「プロダクト・オブ・ザ・イヤー」、CA、CSシリーズは「ホーム・デジタル・キーボード・オブ・ザ・イヤー」をそれぞれ受賞している。

2017年はカワイの創立90周年であるためアピールしていくとのことだった。



[所感]

視察前に「NAMM Show への出展は社運がかかっている」という企業があると聞いていた。世界最大規模の音楽関連の取引商談見本市「NAMM Show」は、サプライヤー・バイヤー・アーティストなど、業界関係者のみ入場可能で1,500社以上の出展があり、年々出展社・来場者数とも増加している。そのため、会場は大変広く、全ブースを見て回るには1日ではとても足りない。スティービーワンダーなど、世界的に有名な大物アーティストも訪れていて、NAMM Showの凄さを実感した。それだけに出展効果と、中小企業が出展することの難しさを、実際に現場を見て話を聞き、大きな意義があるかが分かった。

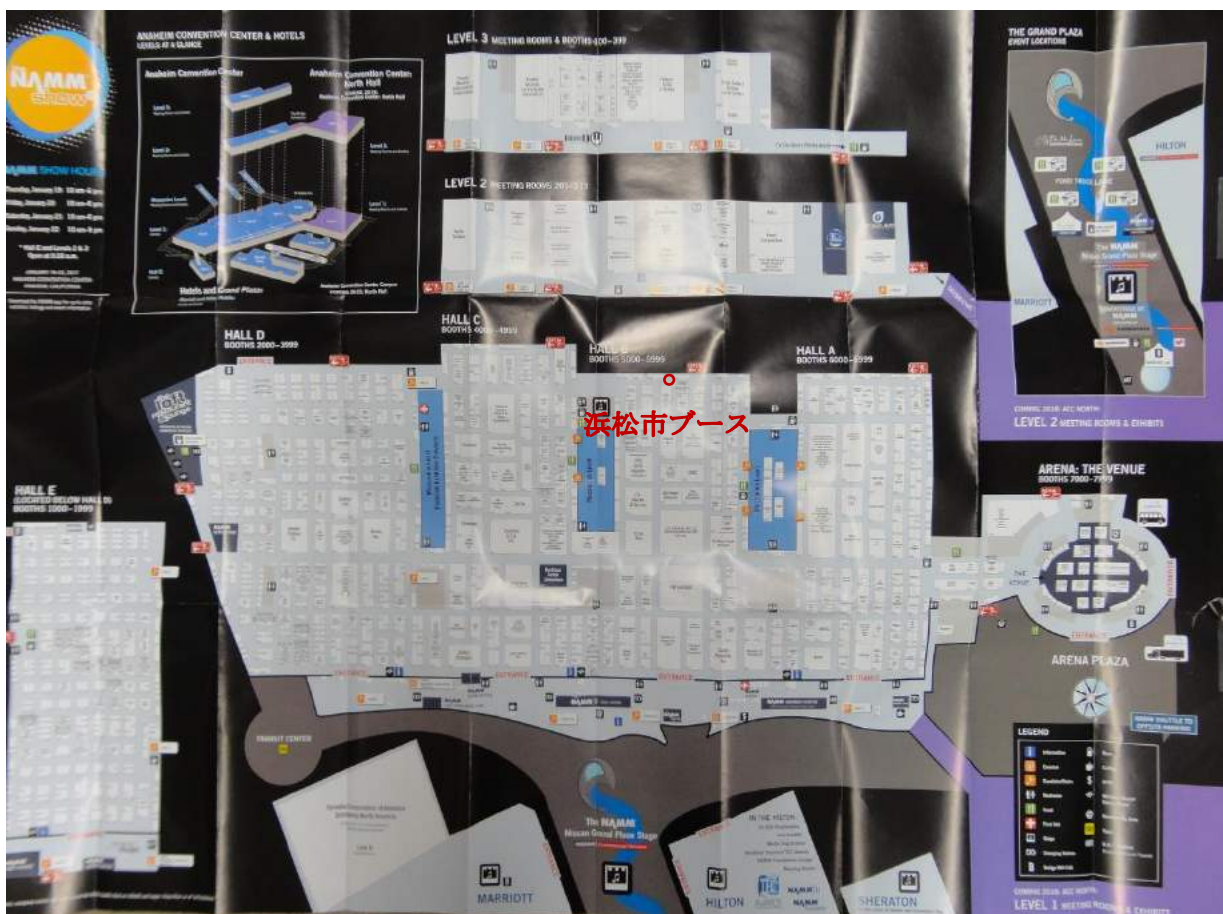
展示会場は通常、管楽器、弦楽器、打楽器、ピアノ、といったようにジャンルごと、ブース分けされているが、浜松市ブースはジャンル分けのない4社の共同ブースだからか、会場の隅の配置だった。大きな会場で当然、通路も多い。そのため、ブースの位置は、来客数に大きく左右する。他とは違う製品のため、浜松市ブースを見つけ、立ち寄った人は興味深く熱心に話を聞いていた。ホロライトは照明ブース、管楽器は管楽器ブースにあれば、もっと集客できたのではないかと考えると、そこが非常に残念に思うが合同出展では難しい要求である。

場所については条件が良い所ばかりではないので、他のブースでも様々なアイデアを駆使し宣伝をしていた。メーカー名入りのステッカーやペン、ギターのパックなどグッズを配布しているところが多かったが、中でも、イギリスのアンプメーカー「オレンジ」のハッキリしたオレンジ色のバッグは、目につくのでかなりの宣伝効果があると思った。この

ように、出展場所のマイナス面をグッズで補うなど、工夫により改善できると考えるため提案していきたい。

Kawai America の概要で触れたが、景気や時代の流れにより、楽器の国内市場は全体的に落ち込んでいる。しかし、どの企業も、他にはないオンリーワン技術や流行を作り出すなど、海外販路を開拓しながら生き残りをかけて様々な工夫をしている。今回、特に本市の企業は、「ものづくりのまち浜松」ならではの、オートバイの加工・塗装技術、高圧鋳造機など、本来、楽器製作には使用されない機械・技術や材質を使い、全く違う観点からの製品を生み出している企業や大企業で習得した技術を使った新製品を開発する中間企業があることを知る機会になった。

海外で活動している企業、また海外販路開拓に関心がある企業いずれも今後、本市の産業振興の重点施策である海外販路開拓支援を、より良いものとするため、出展したい企業が真に求める支援について、しっかり現場の声を聞きながら施策のPDCAサイクルを回す必要性を強く思った視察になった。





氏名 北野谷 富子
担当日 2017年1月21日(土)~22日(日)
NAMM Show (ヤマハブース)

【施設概要】

1月に毎年アメリカで開催されているNAMM Showは、基本的に招待を受けた楽器ディーラー、メーカー、アーティスト、プレス関係者などが入場できるプレミアムなイベントで、一般客は入場できない。1500社以上が出展している。

また様々な楽器メーカーがNAMM Showで新製品を発表することでも有名で、その内容が1年間の楽器業界の運命を左右すると言われる程、重要な楽器見本市である。

《YAMAHA ブース》

【対応者】 ヤマハ コーポレーション・オブ・アメリカ 社長 福留斎 氏

【訪問先概要】

今年は、ヤマハの管楽器・ギター・ドラムが50周年を迎える節目の年、更には音楽業界



に革新をもたらしたディスクラピアやデジタルミキサーも30周年を迎える。ヤマハのブースは、アナハイム・コンベンションセンターに隣接するアナハイム・マリオット・ホテルの1階フロアを全て貸し切り、鍵盤楽器、管楽器、弦楽器、打楽器、音楽制作機器、音響機器などの70以上の新製品を、著名アーティストのライブパフォーマンスやプロダクトスペシャリストによるデモンストレーションを交えながら紹介されていた。その会場に足を踏み

入れた私たちを、まずは50周年記念ドラムが出迎えてくれた。

それぞれの楽器ごとに担当者が熱心に説明してくださり、歴史や最新技術を学んだ。その中でも気になったのは、サイレントの技術だ。私たちの前にチューバ(楽器)でサイレントブラスの商品を試しているお客様がいた。見るからに演奏しているのだが、音が全く聞こえない。周りが賑やか



だから？耳を近くまで寄せたが音は聞こえなかった。これを使えば、小中学校の放課後、一生懸命練習している吹奏楽部の音を“騒音”と言われることがなくなる。すぐにそう感じた。更にヤマハ独自の新技术「Brass Resonance Modeling（ブラス レゾナンス モデリング）」により、イヤホンを通して生楽器の音を再現することが可能だという。この技術で、趣味として音楽を楽しむ人も増えるだろう。サイレント技術に力を入れるには、この時代背景も関係していると感じた。

他にも、今までは国内外の劇場・ホール関係のスピーカーを中心に音響の文化を広げてきたが、今後は建物に埋め込み式のスピーカーに挑戦し、オフィスなどでもヤマハの技術を使用してもらえるように活躍の幅を広げていきたいと語られていた。新しいことにも積極的に取り組む姿勢に様々な“可能性”を感じる事が出来た。いつのまにか私たちも楽器を手に取りワクワクした気持ちになった。



最後に福留社長と数人の役職の方々と話をした際に、印象に残っている話がある。「そもそも、アメリカは学校の教員全員が楽器を演奏できる。それはピアノだけではなく、管楽器や弦楽器においてもそうだ。すべての教員が出来るということは、子どもたちも楽器に触れる機会が多く、次第に興味を持つ。環境が整っているため、当たり前のように演奏できる。」楽器に関連する企業が多いと言われる本市ですら、吹奏楽部は人数集めに必死だ。音楽のまち？楽器のまち？楽器に触れたい、演奏したい、様々な“可能性”を摘んでしまうことが無いよう文字通り改めて“音”を“楽”しむ環境を見直す貴重な時間をいただいたことに感謝したい。

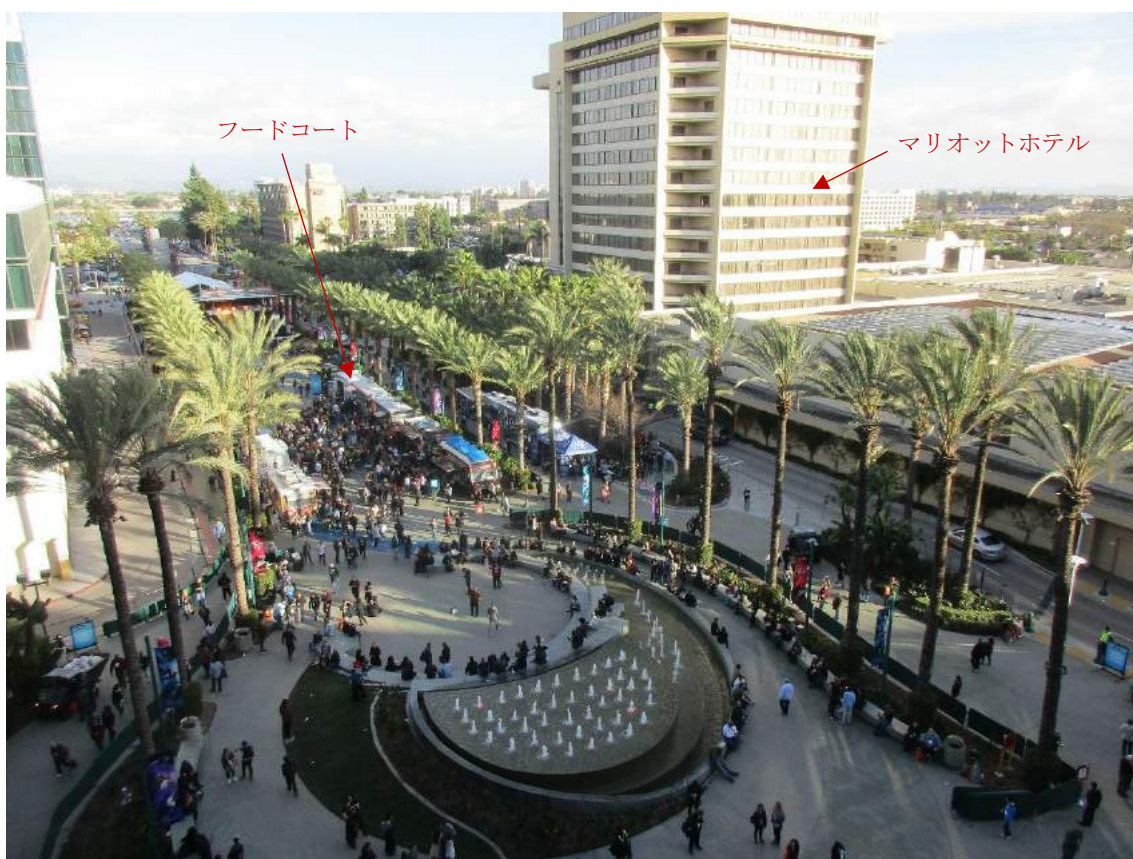
【所感】

視察の企画当初、楽器産業の関係者より「東京ビックサイトで行われた楽器フェアに行けば、NAMM Showに行く必要はない。」と聞いた。それは、間違いだと確信した。そもそも、目的が全く違う。楽器フェアは、セミナーやライブイベントを開くなど一般客を対象に構成されており、有料ではあるが誰もが入場可能である。一方NAMM Showは、バイヤーや関係者を対象にしており一般客は入場できず、より商業的な位置づけとなっている。各メーカーの新商品が軒を連ね、世界中から集まったバイヤーたちの情報発信が非常に重要になる。一度に30台や50台という単位で売り上げることもあり、ここでの成功こそが今年一年の利益に大きく影響するのだ。

その世界的な楽器見本市に本市が自治体で初めてブースを出展したが、本市から中小企業4社が、それぞれに知恵を絞って開発した商品を持ち込み、海外のお客様に対して熱心に説明している姿は同じ市民として大変誇らしいものだった。気がつけば、ほとんどのブースに日本人の姿が見え、いかに日本が楽器産業に進出しているか身をもって感じるこ

が出来た。そして、一番驚愕させられたのは、ヤマハ株式会社と株式会社河合楽器製作所、ローランド株式会社など本市の代表的な企業が世界を相手にこれだけ大きなブースを構えて活躍していることだった。

その3社が“from Japan”ではなく“from Hamamatsu city”とするために、本市の支援はどうすべきか。自治体のブースとの連携強化など、現場にしながら次回の「浜松市ブース」出展に向けた改善内容が浮かんできた。来場者に本市のブースに足を運んでもらうためには？印象付けるためには？どれだけの成果を出すことが出来るのか？現場の空気を感じたからこそ、ポイントを押さえた支援を提案できると感じた。浜松市ブース」出展することがゴールではなく、今後さらに良いものとするために提言したい。



アナハイム・コンベンションセンターから来場者で混みあう屋外フードコートやアナハイム・マリオット・ホテルを望む



氏名 平間 良明
担当日 2017年1月23日(月) 9:00 ~ 12:00
MI (MUSICIANS INSTITUTE) COLLEGE OF
CONTEMPORARY MUSIC
(ミュージシャンズ・インスティテュート現代音楽大学)
2017年1月23日(月) 15:00 ~ 17:00
LACI(インキュベーション施設)

《MI (MUSICIANS INSTITUTE) COLLEGE OF CONTEMPORARY MUSIC》
〈ミュージシャンズ・インスティテュート現代音楽大学〉

【対応者】

- ・渋谷会長 ※ESPグループ会長
- ・ドニー校長 ※元ヤマハ契約ドラマー
- ・ドリー副校長 ※ハリウッド商工会議所会頭
- ・瀬崎ミュージックプロダクションラボ講師 ※浜松市出身、父スズキ勤務
- ・マイク中村アドバイザー (元パナソニック社員) ※ユニバーサルスタジオ運営ノウハウあり

同行者: JETROロサンゼルス 金指次長及びトーレス氏、JETRO浜松 藤本所長



【施設概要】

MI (Musicians Institute)は、カリフォルニア州ロサンゼルスハリウッドに本部を置く、全米音楽学校協会認可の音楽大学である。ジャズやブルース、ロックなどの現代アメリカ音楽を専門としており、短期大学や専門課程なども併設している。1977年にギタース

クールからスタートし、現在はベース、ドラム、ヴォーカル、レコーディングの専門コース、さらには音楽ビジネス学科など現代音楽の業界全般に渡り学べる場所である。約1500人の生徒数を誇り、欧州やアジアからの留学生も多数在籍している。講師にはグラミー賞の受賞者も在籍しており、また、著名なミュージシャンも多数輩出している。MIは1996年に日本のギターメーカーであるESPに経営を譲渡し、運営されている。経営するESPグループ会長の渋谷尚武氏は河合楽器やヤマハのギター部門に在籍した経験がある他、校長のドニー氏はドラマーとしてヤマハ契約ミュージシャンの経歴があり、更には、講師にも本市の出身者が在籍するなど、本市にゆかりの深い人物がハリウッドで音楽業界の人材育成に活躍している。渋谷会長はMIのほか、周辺のメーク学校、ダンス教室、俳優養成学校、UTB放送局なども買収しており、キャンパス・ハリウッドとしてハリウッドのエンターテインメント業界の人材育成を行っている。日本においても姉妹校「MI JAPAN」として日本全国に6校（東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、仙台）開設している。

【視察内容 施設の見学及び、説明】



ミュージックプロダクションラボは機材400基設置。教科書をペーパーレス化し、スマホやタブレットでも参照可能とした。



500人収容のコンサートホールでは週1回先生と生徒による演奏会を開催。有名なミュージシャンのライブも聞ける。



授業は少人数制。使用機材はプロが現場で使う最新機材で実施する。



キーボードはヤマハ、ローランドを使用。全生徒の必修科目となっている。



祝日以外24時間いつでも利用できるレッスンルーム。夜間利用が多いとのこと。宿泊もできる。生徒は楽器を持参するだけで良い。



施設をご案内頂いたドニー校長。敷地内には生徒がくつろげるカフェテリアがある。

【所感】

今回のMI視察によって、渋谷会長を始め本市とゆかりがある人物がハリウッドで活躍されていることや、使用機材についてもヤマハやローランドなどの楽器やアンプ、ミキサーなど、本市ゆかりのメーカー製品が多く設置されていることを確認し、音楽業界における本市の影響力を改めて実感した。視察中において、校長のドニー氏はコンサートホールで開催された講師と学生によるライブステージでの挨拶で私たちが視察に来ていることを紹介して頂いた。その際に、浜松市はクリエイティブシティであり、国際ピアノコンクールなども行われていることや、楽器産業の街であり、ヤマハ、カワイ、ローランド、鈴木楽器などがある街と紹介し、「皆さんは今後浜松市の楽器メーカーと仕事出来るかもしれません」とのスピーチには客席の生徒達から大きな拍手が起こった。世界各国から生徒が集まる学校で、本市の音楽に関する文化や産業についてPRして頂いたことはとても意義があった。

施設内の視察後、渋谷会長との懇談を行った。渋谷会長は大学時代に賛美歌を歌っており、卒業後は音楽関係の仕事に就きたくて河合楽器に入社し、エレキギター担当となった。河合楽器を4年で退職し、その後ヤマハに入社し、4年勤務後退職。その退職金で河合楽器時代の仲間が経営するギターメーカーフェルナンデスの株式を購入し、役員を経験後に独立してESPを創設したとのこと。

ESPが作るギターは、カワイ、ヤマハ、フェルナンデスの隙間を狙って高額商品とした。渋谷会長は本市とは縁が深く、ヤマハの伊藤修二



元社長（現浜松市文化振興財団理事長）とは親友とのこと。アメリカでは通称ミスターコブラ、ハリウッドの極悪人と呼ばれていると話された。

渋谷会長はMIを始め、ハリウッド周辺で買収した建物をグリーンにペイントしている。これは出演者の控室をグリーンルームと呼んでいることから、これらの施設で学ぶ生徒のそれぞれのステージの控室という意味を込めている。渋谷会長の夢であるMI周辺一帯をグリーン建物でいっぱいにするのは次々と実現している。世界をリードするハリウッドで総合エンターテインメントをやりたいと語る姿は2か月後に80歳を迎えることを感じさせないほどの情熱を感じた。また、常に世の中にあるものを考える癖や、会長自ら挑戦する姿勢を見せる姿に、やらまいかスピリッツを感じた。

渋谷会長が創業したESPは音楽業界への貢献を称えて2010年のNAMM Showで表彰されている。今回、の浜松市ブースNAMM Show視察の際に、日本からESP学園の生徒が本市ブースを訪問してくれた。その際にお話を伺ったところESP学園から80名の生徒が来ているという。ESPは生徒にNAMM Showを視察して楽器業界のトレンドを体感させるなど、日本の音楽業界をリードする人材を育成していることも確認できた。渋谷会長にMI浜松校設立の可能性について伺ったが、本気で取り組まなければ難しいとの見解を示された。

私は、今回の視察を通じて、音楽の都浜松を推進する本市の音楽産業や文化の発展には、MIのような音楽業界を先導する人材育成が必要であると感じた。今後、現在策定しているはまホールの後継施設の基本構想に、ミュージシャンの育成や、ミキサーや録音スタジオなど、設置した音響施設を使った音楽業界の人材育成機能の付加など提言していく。



渋谷会長（右端）は貴重な体験談を我々にお話ししてくださった

《LOS ANGELES CLEANTECH BUSINESS INCUBATOR)》
《レーシー（ロサンゼルス環境技術ビジネス起業支援）》

【対応者】 LIZ MORRISON 氏 (OPERATIONS ASSOCIATE)
同行者：JETRO 浜松 藤本所長



【施設概要】

LACI は、環境技術に特化した起業支援を行うため 2011 年 10 月にロサンゼルス市とロサンゼルス水道電力局 (LADWP) が共同設立した施設である。ロサンゼルス市長の環境政策の一環でスタートし、UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、USC (南カリフォルニア大学)、CALTECH (カリフォルニア工科大学) 等の地元大学や、ロサンゼルス商工会議所等の協力により運営している非営利団体である。

【視察内容 施設の見学及び、説明】

運営アソシエイトのリズ・モリソン氏から、スライドによる施設説明を頂いた。

説明は以下の通り。

アメリカは多くの起業家により発展してきたが、今後においても環境技術で発展できる。当施設は 2015 年 11 月の当地への引越しの際、バイデン副大統領が来所し、環境技術の





参加企業は5週間かけて調査する。397企業の申し込みに対し、264企業を受け付け46企業(12%)が残った。現在の参加企業は8%と厳しい世界である。

起業家支援に対して政府の援助はどうすれば良いのか話していた。環境技術は全ての企業に関係がある。カリフォルニア州は太陽光発電面積が一番大きな州であり、太陽光発電関連事業は85%の伸びがあった。LACI 設立の最大の目的は地球温暖化防止につながる事である。5年未満の若い企業が新しい仕事を始めており、ロサンゼルス市に270億ドルの経済効果をもたらしている。LACI は世界中に環境技術を広めるため、9つの国に対してクリーンテクノロジーのアドバイスをしている。学校との連携により、学生のアイデアが今後役立つか判断している。アイデアの採用後は会社の代表が助言してビジネスとして成立するか討論をする仕組みもある。LACI は世界銀行投資家との連携や、マイクロソフトともパートナーシップを結んでいる他、多くのステークホルダーとエンゲージメントしている。また、起業にあたり関連する法律や手続きなどの支援としてポリシーサポートも行っている。世界市場とのネットワークを活用し、ロサンゼルスでしか通用しないと思われる技術も応用すれば他国で使える場合がある。

Six Interconnected components (相互に関連する6つのコンポーネント)



1. アイデアの源泉 (大学からのリサーチ・国研究機関・法人パートナー・事業家)
2. イノベーションと企業家のサポート (指導員・専門家、プログラム、試作設備・機材、ネットワーク)
3. 資金供給 (世界銀行・助成金、奨学金・基金、財団など研究アドバイス)
4. ステークホルダーへつなぐ (既に成長している会社や事業家との取次ぎをサポート)
5. ポリシーサポート (投機資本、会社設立、創業、税対応など各国の法規フォロー、ビジネスモデル、商標登録、知的財産保護などサポート)
6. 世界市場とのコネクション (NGIN や CIC、その他ネットワークで世界市場と接続)

以上、説明された後、質疑として、トランプ大統領の誕生に伴い、地球温暖化を否定する副大統領の就任など、政権交代の影響について伺ったところ、今後、国からの資金援助が無くなるのではないかと危惧しているとのことだった。しかし、環境技術は多くの仕事を創出していることや、世界銀行も LACI に出資し、エチオピアやアフリカ諸国からもコンサルティング料をいただいていることを国へ主張したいと話された。



日本におけるパートナーは電動二輪車のテラモーターズ等を支援している T E P (TX アン
トレプレナーパートナーズ)

※TEP は、日本のトップレベルの技術をビジネス化し社会普及させることを目的として、
2009年11月19日に設立されたベンチャー企業の支援組織である。TEPは、コア技術を持
ち、そのビジネス化を目指すベンチャー企業を中心として、起業・経営経験が豊富なエン
ジェル投資家、専門的アドバイスが可能なメンター、ベンチャー企業との連携を望む大手企業
らを会員として組成している。ベンチャー企業の効率的・効果的な成長のため、つくばエ
クスプレス (TX) 沿線の大学や研究機関、地域行政をはじめ、海外の同様のベンチャーコミュ
ニティにもネットワークを広げており、現在では世界でも有数の技術系ベンチャー企業のエ
コシステムを構築している。(TEPホームページより引用)

施設概要説明の後、施設内の視察を行った。



施設の照明は太陽光発電で賄いマイクロ
グリッド化。排水を施設内観葉植物への再
利用も含め施設内エネルギーは自給自足。



施設駐車場に充電設備設置。多くのEVや
PHV等の電気自動車が駐車していた。



LACI の館内案内図



LACI を支援している企業や団体一覧がロビーのモニターにて表示されている。



ラボ内の設備は寄付によるもの。ラボで様々な試作品の製作ができる。3Dプリンタや試験機などの使用方法も教える。サポートスタッフは専門的なアドバイスができる。



施設は旧家具工場をリユースしており、壁のレンガと鉄骨の柱はそのまま利用している

【所感】

今回の訪問目的は、鈴木市長が提唱する「浜松バレー構想」に基づいて、本市が近年積極的に取り組んでいる起業支援施策の参考とするため、先進事例としてLACIを視察した。

当施設では行政機関と地域の大学や、企業、金融機関等との連携がうまく行われており、多くの実績を上げていることを確認した。

本市の起業支援施策は、本市と公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構、浜松市商工会議所の三者で開設した「はままつスタートアップ」が担っており、起業のワンストップサービスとして「はままつ起業家カフェ（創業・新事業展開支援総合窓口）」を設置し、創業支援コーディネーターを配置するほか、起業相談から派生する経営、販路開拓、資金調達等の問い合わせに対して、地域支援機関（行政、地域金融機関、商工会等）と連携して対応し、創業支援者数 1,114 件、創業者数 105 件の年間目標を掲げてベンチャービジネスの創業を支援している。その他、平成 28 年度当初予算の主要事業として本市の東京事務所内に設置した「首都圏ビジネス情報センター事業」は、首都圏において、本市のビジネス情報収集・発信に関する活動拠点を設置し、積極かつ機動的にベンチャー企業や工場・研究所の誘致、UIJ ターン促進活動などを行うことで、本市の次代を担う企業・人材の確保を目指している。当センターでは、新・産業集積エリア工場用地の一部分譲開始にあたり、ベンチャー企業の誘致に向け首都圏の企業に対する積極的な PR を行っており、2017 年 2 月には東京にて「浜松市ベンチャーフォーラム」を開催している。

LACI 視察後、はままつ起業家カフェに本市の類似施設について確認したところ、本市のインキュベーション施設には「Hi-CUBE」という施設があり、研究室や実験室の家賃について半額補助を行っているが、LACI の様な試作品を共同スペースで作成するようなラボは技術や意匠の流出を恐れ設置していないとのこと。本市には多種多様な産業の企業が拠点を構え、技術や技能を持った人材が多く居住している地域である。企業等との連携により、技能、技術を持った退職者の人材活用場として試作品製作時にものづくりの匠がアドバイスや試作対応できる様な場所が出来れば浜松らしい起業支援施設になるものと考えられる。

経済産業省は平成 27 年度より人材育成の一環として、起業家や大企業・自治体の新事業の担い手となる人材育成プログラム「グローバル起業家等育成プログラム」を実施している。このプログラムは、安倍総理が平成 27 年 4 月に米国シリコンバレーで発表した「シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト」として、ベンチャーに挑戦する人材を広く募集・選抜し、シリコンバレー等に派遣して、現地の投資家や起業家と交流するものである。官民を問わず全国の応募者から一次選抜のうえ国内研修が行われ、二次選抜を経て 20 名が米国シリコンバレーに派遣されるが、本市はこのプログラムに対し、意欲のある職員を庁内公募し応募しており、本市から職員 2 名が一次選抜を通過し、国内研修に参加した。残念ながらシリコンバレー派遣はかなわなかったが、参加した職員がこの国内研修での経

験を職場で生かせるよう所管の人事課にお願いした。

この様な国内外における本市の積極的な起業支援は、転出超過など人口減少が進む中、新規雇用が創出され、転出に歯止めをかけることや、付加価値の高い産業の集積により地域経済の活性化にも寄与するものと大いに期待できる取り組みである。平成 29 年度の当初予算においても、起業支援に関連する主要施策が盛り込まれている。市民クラブとしてその趣旨に賛同し、引き続き具体案を提言していく所存である。



氏名 徳光 卓也
担当日 2017年1月23日(月)
JETRO ロサンゼルス

【対応者】 JETRO ロサンゼルス 次長 金指 壽 氏、トーレス久美子 氏
同行者 JETRO 浜松 所長 藤本 和彦 氏

【訪問先概要】

JETRO ロサンゼルスは、南カリフォルニア、アリゾナ、コロラド、ハワイ、ニューメキシコ、南ネバダ、ユタの7州を管轄地域として、日本企業の輸出支援、進出日系企業のサポート、日本企業の米国進出支援、先進分野の産業交流促進、外国企業の対日投資促進、貿易・経済動向の調査および情報提供などに関する活動を行っている。

【訪問内容】

カリフォルニア州およびロサンゼルス地域の概要についてご説明いただいた。

- カリフォルニア州の人口…約3,914万人
全米の人口（約3億人）の約12%にあたる。ヒスパニック、アジア系（特に中華系）の割合が大きい。
- 経済規模
カリフォルニア州の2015年州内総生産は約2兆4,000億ドルで全米最大。
国別GDP比較に当てはめると、世界第6位の経済規模に相当する。

順位	国名	GDP
1	アメリカ	17,968
2	中国（香港を除く）	11,385
3	日本	4,166
4	ドイツ	3,371
5	イギリス	2,865
	カリフォルニア州	2,430
6	フランス	2,423

2015年GDP比較（単位：10億ドル）

- 地域経済動向
カリフォルニア州の失業率は、2010年10月最高値12.4%を記録したが、1年につき1.2%の減少を続け、回復基調。貿易・輸送、サービス、教育・医療分野が雇用の半数を占める。

・ ロサンゼルスにおける主要産業の特徴

① 物流・国際貿易

ロングビーチ港は輸出入取扱量で米国トップ。全輸入量の約4割を占める北米物流の入口。東アジアとの貿易が全体の約80%を占める。

② 食品

市場規模が巨大で、健康志向の富裕層向け市場も大きい。古くからの日系社会があり、中華系などのアジア系住民も多い。彼らに対する販売を確保しつつ、メインストリームと呼ばれる白人などに市場拡大を狙う戦略も可能性あり。

③ コンテンツ

世界を代表する映画の都ハリウッドがあり、映画関連企業が約13,000社が立地する。ディズニー、ユニバーサル、ワーナー、ソニーなど映画、音楽、TV、アニメーション制作会社だけでなく、ゲームやストリーミングビデオなどデジタルメディアの集積地。

④ 環境・エネルギー

加州は最も先進的なエネルギー規制・政策を導入し全米をリード。2030年までに温室効果ガスの排出量を1990年の40%以下にする目標を提示。自動車ゼロエミッション規制を2009年より開始。2017年を目標に段階的に規制を導入している。

⑤ ライフ・イノベーション（医療機器等）

カリフォルニア大学（UCLA）や南カリフォルニア大学（USC）など、ノーベル賞受賞者等を輩出する有数の医療研究大学が立地。



⑥ ハイテク製造

ロス近郊はシアトルに続く航空機産業ハブ。2014年に同地が国防総省から受けた受注額は総額157億ドル。

⑦ 自動車

巨大な自動車販売市場が存在。2015年の加州新規登録車台数は205万台（トラック含む）で前年より5.2%増。日本車は49%を占める。

- ・ 市場の特徴
 - ① 巨大な消費者市場
 - ロサンゼルスへの輸入額は2,795億ドル。約34%が西海岸で消費される。
 - ② 観光業が盛ん
 - 海外からの観光客は4,550万人。渡航者による消費は1,700万ドル。
- ・ 南カリフォルニアにおける日系企業
 - 日系企業数は約700社。日系企業の雇用数は約83,000人（334社回答）で、現地雇用の占める割合は約97%となっている。
 - 加州の魅力は、市場の大きさ、日系社会の大きさ、物流拠点 等
 - 今後の不安点は、景気の動向、為替の影響 等
 - 業務遂行上の障害は、雇用コスト（福利厚生費含む）、税制 等

【所感】

意見交換では、「浜松バレー構想」について意見を伺った。ロサンゼルスは「シリコンビーチ」と呼ばれ、インキュベーション施設は、大マーケットが背景にあるとのこと。JETROのあと訪問予定のLACIは、ロサンゼルス電力・水道局が設立に関わり、LACI内で創業を目指す者にとっては、公社や企業に自らを売り込みやすい環境にある。浜松は地方都市としては珍しいほど大企業が集まっている都市であり、大企業とのつながりをアピールすることができれば、「浜松バレー構想」も現実味を帯びてくる。LACIの視察は「浜松バレー構想」の参考になる、とのご意見をいただいた。

その他、NAMM Showについても意見交換を行い、金指氏から「NAMM Showは『音楽』という面が色濃いショーであり、『楽器』という面で出展すると成果は乏しいかも。浜松市が今後『音楽』と『楽器』のどちらでNAMM Showに出展していくのか明確にする必要があるのでは」といったアドバイスもいただいた。

短時間の訪問であったが、内容の濃い視察であった。





氏名 丸井 通晴
担当日 2017年1月24日(火)
AMERICAN HONDA MOTOR CO.,INC.

【対応者】 アメリカンホンダ本社 総務部門 矢野 功一 氏
環境ビジネス部門 新崎 知 氏

1月20日から26日までの7日間、実質4日間でアメリカカリフォルニア州アナハイムで開催されているNAMM Show（楽器見本市）とロサンゼルス市内のMusicians Institute（短期大学や専門課程も併設した音楽大学）、JETRO Los Angeles（日本貿易振興機構）、LACI（インキュベーション施設）ならびにアメリカンホンダ本社を視察した。

この視察を契機として、アメリカ国内における浜松市からの海外進出企業動向や、音楽文化交流、環境政策に特化した公共施設や自動車生産等について、今後の浜松市政や本市在籍企業の発展にどのような形で寄与できるかを考察していくこととした。

その中で、私からは視察の最終日に訪問したロサンゼルス市近郊にあるアメリカンホンダ本社における研修内容等について報告する。

アメリカンホンダ本社の総務部門矢野氏と、環境ビジネス部門新崎氏の概要説明後、敷地内の研究所前にある水素燃料自動車ステーション等を見学させていただいた。

【訪問先概要】

ホンダは1959年に日本の自動車産業界で最初にアメリカ進出を果たし、以降2000年のASIMO、2014年にの量産型ジェット機の初飛行、その他汎用機器等、2輪・4輪車のみならず研究生産を手掛け、現在は42か国で114法人、連結社員20万人、現地法人15万人、駐在員2600人規模であることや、海外売上80%、生産は70% 1977年には北米最大の工場がオハイオ州で操業しているとのことである。

カリフォルニア州は環境規制（ZEV規制）が大変厳しいため、環境に配慮した取り組みも進んでおり、さらには安全に特化した自動運転車の生産についても説明を受けた。

ZEV規制（2018年のZEV車16%の義務付け）への取り組みについては、背後に3千m級の高い山を抱えているカリフォルニア州特有の地形から、都市部に空気が停滞することによるスモッグの大気汚染対策として1990年代から排ガスの法規制が始まったとのことである。

ZEV法は、コンセプトは極めてシンプルではあるが、実際の運用上は大変複雑で、カリフォルニアで車を売るクレジット要件をみたすことが非常に難しいとのことである。

現在アメリカには25基の水素ステーションがあるが、2020年には100基を目指し、水素自動車の発展につなげていきたいとのことである。



安全に特化した自動運転車の生産については、自動運転のレベル1～4の内、現時点ではシステムの複合化のレベル2の段階であるが、ゴーメンタムステーション（元アメリカ海軍施設）でのテストや、グーグルとも提携した研究を重ね、2020年には高速道路の自動運転が可能となるように目標を立てているとの説明を受けた。

概要説明後、社内で使用している水素自動車（クラリティ FUEL CELL）に乗車させて頂いたが、エンジン音が無くて静かな走行、排ガスの代わりに無害の水がマフラーから出るのみであり、水素満タンで約750kmが走行可能ということも伺った。

【所感】

将来一番環境にやさしい車となることは間違いのないところであると感じたところであり、その研究所（中には入れない）の前にある水素ステーション前で水を電気分解し水素を取り出してタンクに貯蔵するというシステムを研究員から説明を受け、今後本市においても化石燃料車に代わる電気自動車さらには水素自動車の普及促進が環境保護のためには必要であると感じた。

矢野氏から、アメリカンホンダ本社として環境を大事にしていくシステムは、トランプ大統領の施策がどの様になっても変わらないという力強い説明もあり、私としても意を強くしたところである。



しかしながら、トランプ発言が我が国の自動車産業に及ぼす影響も無視できず、日本政府や自動車工業会等の対応を注視していくことも必要と感じた。

結びに、私事ではあるが NAMM Show 会場内の楽器のブース説明員と、Musicians Institute の講師が、浜松の知人であり、二人に偶然出会うことが出来たのは世界の狭さを実感すると同時に、浜松の人々がいかにグローバルな活動をしているかを改めて感じたところである。

産業部との意見交換

2月28日(火)、今回のNAMM Showへの浜松市ブース出展に携わられた浜松市産業部の方々と「NAMM Show」および「ベンチャー企業支援」について、意見交換を行った。

【参加者】

産業部産業振興課 瀧下且元次長、中野昭徳副主幹、米村仁志副主幹、中田希主任
市民クラブ 斉藤晴明、丸井通晴、平間良明、鈴木唯記子、北野谷富子
徳光卓也(司会)



NAMM Show について

司会 市職員としてNAMM Showに帯同された3人の皆さんから、成果や課題なども含めたご感想をお聞かせいただきたいと思います。

瀧下 昨年は招待、今年は出展者であり、立場が全く違いましたね。NAMM Showに招待さ

れるきっかけは、JETRO 浜松の後押しで、今回、市民クラブの視察先の一つとなっている MI のドニー校長が浜松に来られたこと。それを聞いた JETRO ロサンゼルスが「そんなポテンシャルの高い浜松なら」と NAMM Show 側に伝え、NAMM Show 側も「ヤマハ、カワイのある浜松なら、一度浜松市長を表敬訪問したい」と話がとんとん拍子に進みましてね。そのようなことがあって、昨年、NAMM Show に招待されたんですよ。NAMM Show に出展するには、NAMM Show の会員にならねばならないが、通常、企業として会員登録が認められるのですが、今回は「浜松市」として会員登録が認められ、今年の出展となりました。

今年、出展者として NAMM Show に参加してみて、出展のおもしろさを実感しました。場所はメインストリートではなかったけれど、これからステップアップしていけばいいと感じました。浜松市ブースに出展した企業も手ごたえを感じているようでした。来年以降も NAMM Show への出展は続けていきたいですね。



中野 これまでは、米国で開催された MD&M WEST (医療機器の見本市) や、ドイツで開催された COMPAMED (医療機器の見本市) などを準備から現地支援まで担当しました。それらと違うところは、NAMM Show が最終製品の見本市だということ。今までは、部品、部材、要素技術等の見本市でしたので、1 回出展しただけで、すぐに成約に結びつくものではありませんでした。しかし、NAMM Show は NAMM 会員でなければ参加できないというフィルターがかかっているためか、出展してくれた 4 社とも見込みを含めると商談が成立し、成約件数は 21 件となりました。場所は、確かにメインストリートではなかったですが、十分な人通りもありましたし、特定の楽器にゾーニングされたところではなく、比較的静かなところだったので、主催者側に配慮いただいたと感じています。浜松市は平成 25 年から海外見本市に出展してきましたが、これまでは代理店等が間に入り出展準備をしてきました。



NAMM Show では、我々が主催者側と直接交渉し、出展しました。大変貴重な経験となり、ここを経験することにより、世界のどこで開かれる見本市でも出展できる自信になりました。

中田 昨年行われた楽器フェア（東京）と NAMM Show での出展実務を担当しました。楽器フェアは一般の方が来場しますが、NAMM Show は会員など限られた人が来場するので、よりビジネスに結び付く催しであると感じました。出展企業も満足されており、来年も継続して出展を希望する企業さんもあります。場所など様々な課題も見えてきましたが、今年の経験を来年の NAMM Show につなげたいと思っています。

司会 では、市民クラブから感想も含め、意見交換をお願いします。

鈴木 場所が重要であると感じました。中田さんから「様々な課題も見えてきた」との発言もありましたが、場所以外の課題を教えてください。

中田 今回は代理店等を通さず、主催者側と直接やり取りをしましたし、ブース設営会社も海外企業だったので調整が大変でした。タイムスケジュールに沿って早め早めに対応したり、言うべきことはしっかり言うことなどに心がけました。

鈴木 場所については、希望する場所を選べるのですか。

中野 長年出展している企業は、メインストリートの良い位置など毎年決まった場所に出展しています。場所については、空き状況に応じて対応することになると思います。ドイツの見本市では、浜松ホトニクスブース近くに浜松市ブースを構え、相乗効果を狙っています。

鈴木 今年4社で出展しましたが、今後出展企業が増えると、今回の浜松市ブースの面積では手狭に感じます。出展企業が増えた場合、対応できるのですか。

中野 現在、NAMM Show も含めて3つの国際見本市に出展していますが、いずれも広さは36㎡。6社くらいまでなら対応できると考えています。



瀧下 お金をかければ、広さや飾りつけも対応できますが、少ない予算でより効果的なものにしていかなければと考えています。とはいえ、多くの企業に世界を感じていただくことも重要です。

北野谷 今後も同じ場所に出展したほうが効果はあるのではないのでしょうか。

中野 悩ましいところですね。来年も同じ場所だと打診は受けています。しかし、より良い場所が空けばという気持ちもあります。今回、日本から出展している企業にもヒヤリングを実施しましたが、「周りの環境が年によって変わるので、周りの出展企業も重要」だとアドバイスをいただきました。NAMM 事務局とも協議しながら決めていきたいと思っています。

北野谷 会場では、例えばオレンジのバックを配布して PR している企業がありました。来年は、グッズを使用してブースに誘導してはどうですか。

中野 PRについては、来場者に対し広く行う方法と、ターゲットを絞りピンポイントで行う方法があります。今回の4社については、ターゲットは4社4様です。JETROなどを通じて、ターゲットとなる企業のリストを入手し、ダイレクトメール等で「NAMM Showでは〇ホール〇番に出展」などの告知をする方法もあります。Eメールを使用すれば費用も抑えられますよね。これまで、浜松市ブースを出した国際見本市では、名刺交換をした企業のリストを作成し、これら企業に対して浜松市ブースの出展企業や場所などの情報を発信しています。

また、グッズ作成はブランドが確立されていれば有効ですが、浜松市ブースではいささか疑問です。実は配布用バックも帰国後検討しましたが、作成に20万円ほどかかる。輸送費も考えると、費用に対する効果は現状では未知数と言わざるを得ません。

平間 NAMM Showの規模の大きさに驚きました。その中で、浜松の企業が大きなブースを構え、来場者で賑わっている様を見て、浜松の楽器産業の凄さを実感できたことは非常に意義があったと感じています。場所については、浜松の企業ブースと連携できないでしょうか。また、今回浜松市ブースを構えることができたのは、浜松市が会員になったからですね。今回出展した4社は希望すればNAMMの会員になれるのですか。

中野 今回出展した4社は会員になりました。

平間 会員になる基準はあるのですか。

中野 NAMMには基準があり、審査を経て会員になります。今回は4社を支援する形になりましたが、同じ企業を何年も継続支援することはできません。浜松市ブースはスタートアップの場と考えていただき、その後は単独で出展していただきたいですね。スタートアップの期間については、現状3～5年と考えています。スタートアップを終え、単独出展を考える企業には、イノベーション推進機構でものづくり販路開拓支援事業費補助金という制度があります。これらの制度を使いながら国内外の見本市に出展し、自立していただければと考えています。



瀧下 浜松には、管楽器関係ばかりではありません。今後、多くの楽器関連企業に参加いただくことを考えると、場所は固定したほうが良いように感じます。ただし、今回の場所が良いということではありません。例えば、鈴木楽器さんの近くにブースを構えることができれば、相乗効果も考えられるでしょうね。

斉藤 NAMM Showでは、ヤマハ、カワイ、ローランドと浜松の企業が大きなブースを構え、ブランドが確立していますよね。個社のブランドは確立していますが、その所在地である「浜松」はほとんど知られていない。浜松市ブース出展を機に、

「HAMAMATSU」ブランドの醸成の場にならないでしょうか。

瀧下 これから、ヤマハ、カワイが「浜松」にあるということを発信していかねばならないと感じています。

徳光 今回の浜松市ブースに出展していただいた4社は、従業員が10名前後の規模ですよね。自動車業界では、中小企業と言われる部品メーカーでも数百人規模であり、それらがサプライチェーンを構築している自動車産業とは楽器業界の産業構造は全く違うことを感じました。今回出展していただいた4社は世界に通用する技術もあります。だからこそ、彼らがビジネスチャンスを広げる国際見本市への出展には行政のバックアップが必要だと感じました。

瀧下 楽器の中小企業は、大手楽器メーカーに部品も供給していますし、自ら製品を作成しエンドユーザーともつながっています。NAMM Showのような見本市では、行政としてバックアップしやすいと感じます。

徳光 今回の4社は、浜松ブースの出展の意図に合致すると考えられますか。

瀧下 NAMM Showは、各社の新製品を発表する場としての意味合いが強いショーですが、浜松市ブースではリペアなどNAMM Showとしてはニッチな分野の技術を前面に押し出したことが功を奏した印象です。

丸井 海外戦略ですが、北米市場、欧州市場、東南アジア市場など、ターゲットとする市場ごとに対応が変わってきますよね。今回のNAMM Showだけで海外戦略はこうあるべきと決めるべきではないと思います。ただし、北米市場に関しては、成果と課題が見えてきたのも事実です。そのことも踏まえ、2月議会の一般質問を行いたいと思います。

瀧下 見本市への出展の考え方ですが、有効的かつトレンドの見本市を探してそこに出席するようにしています。そして、出展した企業は将来単独で出展する、つまり自立してもらうようにと考えています。今後も新たな分野の見本市への出展も模索していますし、興味のある中小企業には「市と一緒に出席して自信をつけてもらう」ことができたらうれしいですね。

ベンチャー企業支援について

瀧下 市長も「浜松バレー構想」ということで、ベンチャー企業の誘致や支援について来年度予算（案）にも計上しています。今回、市民クラブがロサンゼルスインキュベーション施設の視察調査を踏まえ、浜松市のベンチャー企業の誘致や支援に関し、意見をいただきたいのですが。

平間 LACI は、起業前や起業後も、大学や行政、金融や知財といった様々な分野のバックアップが整っていると感じました。浜松は、技術を持った匠の方々が定年を迎えています。この匠の皆さんが、ベンチャー企業のバックアップに回ってもらえると心強いですよ。LACI には試作品を作成するラボがありました。浜松のインキュベーション施設にもラボを設け、そこに匠の方々が常駐し、アドバイスなどをしていただけたら、浜松らしいと思いますよ。



丸井 「浜松だからできる」といったバックアップ体制ができる強いよね。
瀧下 モノづくりの街で、製品の形を見せる場所があることは重要です。確かに、浜松にはベンチャー企業向けのラボがなく、市長からもラボについては宿題をもらっています。ただし、お金がかかる。工作機械一つとっても高価であり、企業で不要な機械を集めるという手段もあるかと考えています。民間でラボ付きの施設を開設する動きもあり、市としてそれらを支援していく方法もありますよね。

米村 ラボ系も DMM ドットメイクとかテックショップといった企業が東京に進出しており、そこも視察してきましたが、最初は講座を開催しても受講者が集まらなかったようですが、モノづくりのブームもあり、最近では講座を開けばすぐ満員になるといった状況でした。浜松もいきなり最新の設備を整えるのではなく、最初は企業からの払下げの機械で始めて、徐々にベンチャーの文化を根付かせながら推進していくべきかとも思っています。



平間 LACI も、置いてある機械は企業からの寄付でした。LACI から出てきたアイデアについては、機械を寄付した企業なども恩恵があるなど、GIVE & TAKE の関係が構築されていると感じました。

鈴木 例えば、技術を売りにしたベンチャー企業であれば、確かな技術はあるけど、どこに売り込めばいいか分からないということがあるのではないのでしょうか。LACI にもありましたが、その技術と企業をマッチングするというのも重要だと思います。

米村 LACI のようにマッチングを含めてワンストップサービスが提供できないかと思います。日本でも、福岡・神戸・大阪あたりではこのようにワンストップでベンチャーを支援するところがあります。このようなことができないか、調査・研

究しているところです。

瀧下 もう一つの課題は、浜松の中堅企業の皆さんを中心に、ベンチャー企業を育てていくという機運を盛り上げていく必要があると思っています。お金を出す・知恵を出す・仕事を出すといった「エンジェル」といった企業になってもらうよう、市としても努力をしなければと思っています。

司会 活発な意見交換をすることができました。市民クラブとしても、今回の視察調査を活かして浜松を元気にする政策提言をしていければと思います。ありがとうございました。

以上